

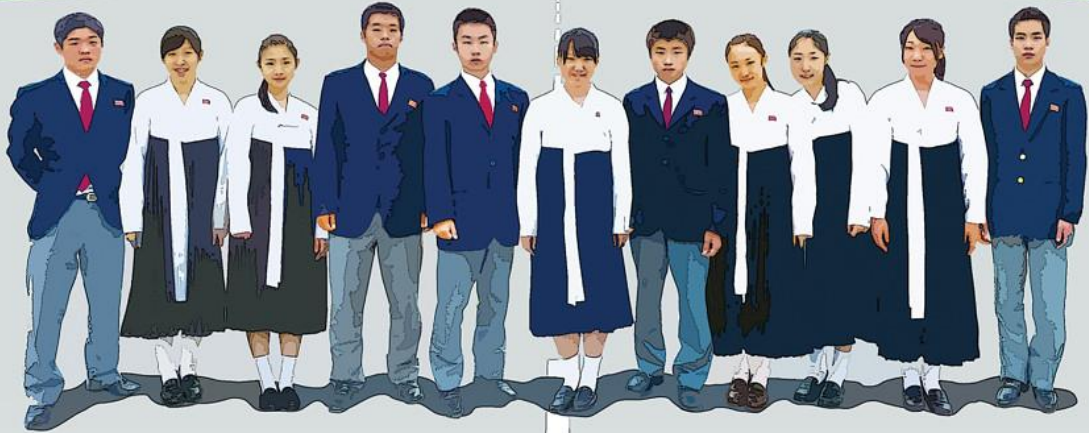
異国の空と祖国の空一、その瞳たちに映る蒼い希望。

ダラス・アジア
映画祭2016
最優秀ドキュメンタリー賞受賞

第8回DMZ国際
ドキュメンタリー映画祭
DMZビジョン部門正式招待作品

第21回なごか映画祭
正式招待作品

よこはま若葉町多文化映画祭2016
正式招待作品



0.P.R.K ← → JAPAN

서브타이틀

長編ドキュメンタリー映画

蒼のシンフォニー

SORAIRO NO SYMPHONY

— 日本で生まれ育った朝鮮学校生徒たちの物語 —

参加無料

監督 | 朴英二

出演 | 茨城朝鮮初中高級学校 第58期生

朴英二監督解説
&
宋基燦氏講演
も同時開催!

朝鮮学校が問うもの—映画『蒼のシンフォニー』上映会

日時：2017年2月4日（土）14：00～17：30（開場 13：30）

場所：立命館大学衣笠キャンパス 充光館B1階301教室（定員170名）

主催：立命館大学生存学研究センター 共催：立命館大学コリア研究センター *会場の近くに駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。
お問い合わせ先：立命館大学生存学研究センター事務局 TEL: 075-465-8475 FAX: 075-465-8245 E-mail: ars-vive@st.ritsumei.ac.jp

制作 | 蒼のシンフォニー製作委員会 ©NEWSTYLE.CO.,LTD soraironosymphony.com

日本・韓国・朝鮮、三つの国境をまたいで 撮影されたドキュメンタリー映画。

訪朝14回、訪韓10回。南北を自由に往来する
在日監督によるドキュメンタリー。

朝鮮学校生徒たちのありのままの姿と、朝鮮の人々の素顔を、
朴英二の“眼”だからこそ撮りえる映像で描き出す。



日本には数多くの朝鮮学校が存在する

日本で生まれ育った在日コリアンの子どもたちが、民族の言葉や歴史、文化などを学んでいる。生徒たちは高校3年生になると、“祖国”である朝鮮民主主義人民共和国を訪問する。日本のメディアでは目にする事の出来ない「北朝鮮」の姿を、自身の心と体で感じ取る。



祖国は未だ分断されたまま

軍事境界線で、70年にもわたる南北分断の悲劇を目の当たりにする生徒たち。あちら側では外国人観光客がもの珍しそうに、こちら側にカメラを向けている。「北」から「南」を眺める「朝鮮」籍の彼女は、「故郷」である韓国の地に足を踏み入れることは許されない。



在日朝鮮人として生きる選択

街を歩く生徒たちを見て、朝鮮人だと気付く人は誰もいない。見た目も話す言葉も日本人と全く変わらない。朝鮮人であるためにヘイトスピーチの脅威にさらされ、朝鮮学校に通うことで、高校無償化からの除外という差別にさらされている。人々の「善意」が口々に言う。「どうして日本人にならないの?」

生徒たちが奏でる交響

国や社会から存在を否定され続けてきた生徒たち。そんな逆境の中でも、堂々と前を向き、しっかりと夢を語る。明るく笑い、歌う。「蒼」は青春の、けれども、くすみがかかったこの空の色。だけど一人一人が、きっと大きく一つにつなげていくであろう、輝く蒼天の色。響きわたる、愛と希望のシンフォニー。



茨城朝鮮初中高級学校
1953年4月15日創立。初・中・高級部(小中高に相当)が併設されている。高級部の学区は東北6県、新潟、栃木、群馬、茨城で、10県・6校(東北6県には宮城と福島に2校)の日本最大学区(本州の45%)であり、高級部生の大半は寄宿舎で生活し学校に通う。2014年度生徒数70名。

監督:朴英二 出演:茨城朝鮮初中高級学校 第58期生 プロデューサー:尹志守 制作:朴明順、許相浩、李英哲、李鐘周
主題歌:「そらいろ」金福仙 音楽:高明秀、全寿福、李龍午、ウリナラ 撮影:朴英二、金成光、尹志守
2016年 / 日本 / 95min 製作:蒼のシンフォニー製作委員会、NEWSTYLE soraironosymphony.com

そらいろ
蒼のシンフォニー
SORAIRO NO SYMPHONY

企画趣旨

日本社会において朝鮮学校は教育基本法に定められる「学校」と同等の地位をもっていません。2014年改正の「高等学校等就学支援金の支給に関する法律」、高等学校無償化政策からも、朝鮮学校は排除されています。中等教育だけではなく、初等教育に関しても、公的支援から排除され続けています。2016年には京都朝鮮初級学校に保健室が設置されたと報道されました。子どもが手当を受ける場をつくることさえ難しい財政状況があります。全国各地で、朝鮮学校を高等学校無償化から排除したことに抗する裁判が提訴されました。朝鮮学校が公的支援から排除され続けることになった歴史的背景はどのようなものなのでしょうか。なぜ朝鮮学校に対する差別的な政策があるのでしょうか。朝鮮学校がヘイトスピーチやヘイトクライムの攻撃対象になってきたのはなぜなのでしょう。

映画『蒼のシンフォニー』(監督:朴英二/出演:茨城朝鮮初中高級学校第58期生2016年/日本/95分)は、茨城朝鮮学校の高校3年生が、「祖国」である朝鮮民主主義人民共和国を訪問する姿を描いたドキュメンタリーフィルムです。映画を上映後、監督朴英二氏に映画の解説をしていただきます。また、宋基燦氏(立命館大学映像学部/コリア研究センター)に、朝鮮学校等、在日朝鮮人教育運動の歴史・現状・課題を講演いただきます。上映会・講演会を通じて、日本社会における朝鮮学校の位置付けを考え、議論する場をつくりたいと考えています。